

公益社団法人 私立大学情報教育協会
平成27年度 第1回 医学教育FD/ICT活用研究委員会 議事録

I. 日 時：平成27年8月27日（木） 18:00～21:00

場 所：私立大学情報教育協会 事務局会議室

II. 出席者：内山委員長、平形委員、山本委員、福島委員、高松委員、
藤倉委員、渡辺委員（ネット参加）

III. 検討事項

1. 今年度の検討課題について

初めに委員紹介を行った後、事務局より今回の検討課題についてこれまでの経緯も含めて次のように説明した。

- ・今年度の委員会では、国際的に通用するカリキュラムを目指したICT活用による教育方法について検討することにしており、そのICT活用教育としては「知識の定着を目指した反転授業」、さらには知識の活用・統合を目指した「レスポンスアナライザーを導入したTBL」、「ネット上での臨床診断」、「医療に関する実践的な問題等を討論するフォーラム型授業」、「複数学年による学び合いとICT活用」などが考えられるが、それらの優れた実践事例を委員会で収集し、Webに掲載して情報共有することを課題とすることを前回委員会で確認した。
 - ・他の委員会の状況としては、歯学委員会ではネット上でフォーラム型の授業を行うことを検討している。具体的には、これまでの歯科疾患治療の技術教育だけでなく、健康寿命延伸のため予防も含めた歯科医療に対応した教育を行うため、全身の健康と歯科予防について医・歯・薬、社会福祉、栄養、保健など多分野の専門家で議論を展開し、その映像をネット上に掲載して教材として学生が学びを深めていくスキームを作ることになっている。できれば医学や薬学の委員会とも連携し、年内には合同委員会を開催し意見交流を行いたい。
- また、法律や会計の分野でも社会に出てから専門分野の職業に就かない学生が大半のため、学部教育では専門以外の知識と統合し、多面的な視点から問題解決していける教育を目指して、歯学と同様に分野横断のフォーラム型授業など新しい授業について検討している。

2. 国際的に通用するカリキュラムを目指したICT活用による教育事例について

① まず、国際的に通用する教育について、以下のとおり意見交換を行った。

- ・日本の医学教育は、教養的な基礎知識を学ばせた後に臨床教育を行っており、教養を活かす教育の仕組みとなっていないが、本来は臨床で教養的な知識も活用し様々な視点から判断していくべきである。また、学生も単に知識を学ぶだけではモチベーションも下がってしまうので、教養と臨床の教育の仕組みが重要である。
- ・医療分野は医師としての技能と倫理性を教育する職業人養成となるので、社会学系分野とは切り分けて考えたほうがよいのではないか。
- ・一つの実践事例から検討していくのではなく、実践経験のある複数の教員でワーキンググループを作って何か作るということであれば可能ではないか。
- ・知識と技術の学年ごとの到達度評価や振り返りが行える仕組みがあるとよい。
- ・大学間で連携して一つの課題についてディスカッションさせる場があるとよい。
- ・ポートフォリオを活用した教育の仕組みについては、大学で導入されてきているので、検討課題としてはよいと思われる。
- ・私情協の委員会で検討したところ、ポートフォリオを導入しても教員が学生にフィードバックできないために学生が利用しなくなっているため、多岐に亘る内容を一教員だけでなく大学全体として対応し、ワークシートを活用して教員がフィードバックし学内で共有していく仕組みの必要性などの課題をまとめ、Webにも掲載している。医学分野だけでなく大学全体の課題になるのではないか。
- ・スマホ、タブレット、iPadで学生が気軽にアクセスして検索できる教材、仕組みづくりが必要で海外の教材なども活用できるようにしたい。
- ・著作権問題により、ネットに教材を掲載できない資料が多く、充実した教材にしようとすると現状では自作しなければならず教員の負担が大きい。
- ・文化庁の文化審議会では、デジタルコンテンツの教育利用について権利者団体と教育機関からヒアリングを行い、さらに詳細な情報を収集した上で、今後の具体的な課題について検討している。

② 次に、ICT活用による教育事例として委員および事務局から、順天堂大学のTBLによるチーム学修、

日本医科大学ではレスポンスアナライザー（クリッカー）を活用したTBL型授業、東邦大学の症例を題材にしたゲーム感覚の倫理教育ソフトの活用、山梨大学医学部での反転授業、東京医科大学でのレクター大学と共同開発によるeラーニングの導入、順天堂大学でのJMOCへの教材提供、岐阜大学でのシミュレーション、チュートリアル、医療面接等でのICT活用などが紹介された。しかし、委員や事務局による事例だけでは情報量として限界があり先進的な事例紹介まで至らないこと、また各大学の実践内容はネット上でもあまり公開されていないことから、今後、委員会としてどのように情報収集し提供していくべきかについて改めて以下のように意見交換した。

- ・基礎知識の定着はICTを活用した繰り返し学修が欠かせないが、この点については、私情協でポータルサイトを構築して教材や、活用した教員からの感想や考察を共有できる仕組みを作るとすることも考えられるが、知識を組み立てるなどの能力育成については、Web上には掲載されておらず、状況がわからない。
- ・国際的に通用する教育にするためには臨床の能力を高める必要があるため、そのために求められる教育を検討していくことが課題になるのではないか。よって、ICTを活用した理想的な授業について事例をベースに探求し、課題に向けて解決すべきことを描いていくことが委員会の課題になるのではないか。
- ・学生がインターネットなどICTをツールとして使いこなしているため、そのような状況を踏まえて教育でどのように効果的にICTを活用していくべきかが今後の課題である。
- ・学生が真剣に学びに向かうため、工学部系教育では口頭試問での卒業試験を行うという評価制度の見直しも考えられている。また、口頭試問を他大学の外部試験管なども含めて対面で行うことは困難なため、ネット上でVTRの問題を出し、学生が一斉にそれぞれ異なる問題に解答し、それを評価するという仕組みも考えられるのではないか。
- ・ICTの活用事例について評価も含めて収集し、可能性と限界を確認するということが目的になるのではないか。
- ・専門と教養の教育を4年間で統合していく動きがあるが、その中でICTを活用して効果的に学ばせるといった方法は考えられないか。
- ・学生に情報を集めさせて情報を鵜呑みにせず疑う力を身に着ける教育は必要になる。
- ・ICT活用の目的には、例えば対面の補完的な役割、繰り返し学修による知識定着、学生の学びの到達度把握などがあるが、この委員会ではICTを活用する目的は何になるのか。
- ・ICTを活用した望ましい教育はどのようなものがあるのかを探求し、効果的な事例を情報提供していく一方で、これまであまり議論されてこなかったICT活用による教育の評価についても検討していくことが課題になるのではないか。
- ・臨床実習を充実させるためのICT活用や、評価ツールとしての活用など、目的を絞ったほうが考えやすいのではないか。
- ・臨床実習は対面が中心なので、情報を収集するなどツールとしての活用方法や情報の扱い方を学んでいくほうがよいのではないか。
- ・臨床実習は確かに対面中心の教育になるが、委員会ではICTをどのように有効に活用すべきかが課題となっており、実際に臨床実習や評価の面でICTをうまく活用している大学があると思うので、他の大学でも導入できるような教育事例を共有するとともに、どの大学でも必須となる教育の汎用的教材を情報共有することは、各大学にとって有益なのではないか。
- ・有益な教育事例や教材について各大学にアンケートをとり、それらの情報を私情協のポータルサイトに掲載し共有するという提案も委員会の研究テーマとして考えられる。また、アンケートは、私情協のサイバーFD研究員や授業改善調査の回答者の教員に協力を呼びかけ、情報を集めることは可能。
- ・まずは先進的にICTを活用している教員の方から、効果があったことや役に立たなかったことなど体験談を紹介いただき、今後の方向性を具体的に検討していけばよいのではないか。
- ・講師としては、医学教育学会の埼玉医科大学にICT活用の現状や課題について紹介いただいてはどうか。

3. 次回委員会

今回は、埼玉医科大学からICT活用の現状や課題について事例紹介いただいた上で、今後の進め方を具体的に検討することにし、開催日時は10月29日18:00以降を第一候補として椎橋先生のご都合を中心に日程調整することにした。